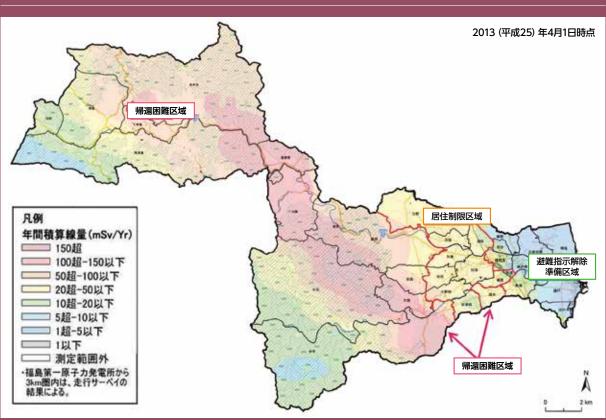
2013.4.1

浪江町 避難の足跡 ②

2013 (平成25)年4月1日 避難区域再編

国の原子力対策本部から出された「警戒区域、避難指示区域等の見直しについて」に基づき、 警戒区域等の再編が行われました。この見直しは、大熊町 (2012 [平成24] 年) が先行し、 富岡町 (2013 [平成25] 年3月25日)、浪江町 (同年4月1日)、双葉町 (同年5月21日) の 順で行われました。

浪江町も3区域に再編。「居住制限区域(※1)」と「避難指示解除準備区域(※2)」は、通行許可証があれば立ち入ることができ、山側を中心とした「帰還困難区域」は、引き続き立ち入りが制限されました。





- : 1 年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する 観点から引き続き避難の継続を求める地域。
- ※2 年間積算線量20ミリシーベルト以下となることが確実であることが確認された地域。

■ 交流の輪、次々と

町外で約21,000人が避難生活を続ける中、県内外において町民の交流事業が盛んに行われました。県内では、須賀川市、猪苗代町、福島市、郡山市、相馬市で「しゃべり場」を開催。定期交流会の「集まっ会」が二本松市内で開催され、県内全体で約300人が交流を深めました。県外の交流会は、千葉県、岩手県、東京都、神奈川県などで開催され、約130人の町民が参加しました。また、町民同士の情報交換や憩いの場、健康教室などの交流の場を設けようと、町では、2013 (平成25) 年7月6日に「なみえ交流館」をいわき市常磐上矢田町に開所しました。

こうした中、同年11月9日、10日に愛知県豊川市で開催された「第8回B-1グランプリ」において、浪江焼麺太国が参加64団体中、1位のゴールドグランプリを見事獲得し、全国に町の復興にかける想いを発信しました。

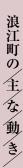


TOPICS

浪江町名誉町民顕彰式· 第41回浪江町功労者表彰式

2013 (平成25) 年11月3日、二本松御苑 (二本松市) において、浪江町名誉町民顕彰式・第41回浪江町功労者表彰式を行いました。式では、本町出身の民謡歌手で、浪江町の観光親善大使やふるさと浪江会長などを務めた原田直之氏へ、馬場町長から浪江町名誉町民称号を授与しました。また、地域振興に貢献された町民に表彰状を贈りました。(受章者:名誉町民称号贈呈1人、特別功労表彰5人、功労表彰14人、善行表彰31人)





2013 (平成25)年

【7月1日】

・町内の事業者として初の営業再開 (日化ボード(株)、(株)叶屋)

【7月6日】

・いわき市になみえ交流館を開所



【10月】

・帰還困難区域のモデル除染が開始

【11月6日】

・町民協働による進行管理部会から町への 提言

【11月7日】

・浪江町戦没者追悼式・慰霊祭を4年振りに 開催(二本松市 ほうりん)

【11月9日、10日】

・浪江焼麺太国、2013 B-1 グランプリ in 豊川にてゴールドグランプリ受賞

【11月~】

酒田地区で本格除染が開始

2014 (平成26)年

【2月】

- ・町内の井戸水・沢水等の放射性物質モニ タリング検査開始
- ・「浪江町復興まちづくり計画 中間とりまとめ」 への意見募集 (パブリックコメント)

【2月4日】

・災害危険区域を指定(津波被災地)



常磐自動車道 浪江 IC

避難先での生活維持か、ふるさとへの帰町か

■ 主要道路の復旧が進む

避難生活が長期化する中、町は2014 (平成26)年度を「緊急復旧対応期」から復興計画における中期(発災から4~6年)の初年度「復興の実現期」と定め、復興の促進に向けて各種施策を展開しました。この頃、町民の生活状況は次第に落ち着きを取り戻しつつあり、避難先で生計を立てるか、帰町に向けて動き出すかという判断材料が出揃う「復興のターニングポイント」と言える時期でした。

町では、原子力災害避難区域等帰還再生加速事業委託金をはじめ、東日本大震災復興交付金等の国の財源を復旧・復興などに活かす内容を計画に盛り込むとともに、帰還に向け自宅に帰ることのできない住民の住居確保を目的とした町内の復興公営住宅の整備計画策定をスタート。4月より復興公営住宅第一期の入居申込み手続きを開始しました。

2014 (平成 26) 年11 月末時点での応急仮設住宅の状況は、建設戸数 2,893 戸に対して入居戸数 2,062 戸、入居者数 3,825 人、入居率 71.3%。県内の特例借上げ住宅は、会津地方102 戸 248 人、中通り地方 2,003 戸 4,251人、浜通り地方 1,270 戸 2,386 人、合計 3,375 戸 6,885人でした。

2013 (平成25) 年に帰還困難区域を除く地域への立ち入りが可能となり、5月21日時点では、浪江町通行証9,129件、浪江町臨時通行証1,399件、特別通過通行証86件を発行。5月18日~20日のバス立ち入りについては97世帯138人から申し込みがあり、91世帯129人が立ち入りを実施しました。公益立ち入りは、4月849件、5月は259件でした。

主要道路の復旧も進み、国道6号の通行制限は2014 (平成26)年9月に解除され、物流や人の移動の利便性が格段に向上しました。また、念願だった常磐自動車道浪江ICが同年12月6日に開通し、北方面への交通アクセスが容易となりました。常磐富岡IC-浪江IC間は、2015 (平成27)年3月1日に開通し、常磐自動車道が全線開通しました。また、国道114号の浪江IC以東、国道6号までの通行規制も解除され、復興に向けての動きが加速しました。

TOPICS

全国10拠点で「復興支援員」がサポート

県外に避難している町民へのサポートは、総務省の「復興支援員」制度を利用した復興支援員を配置。 2014 (平成26) 年は、全国10カ所の拠点で活動を展開しました。

宮城県/一般社団法人 東北圏地域づくりコンソーシアム

山形県/NPO法人山形の公益活動を応援する会・アミル

群馬県/NPO法人 高崎子ども劇場

茨城県/NPO法人 茨城 NPO センター・コモンズ

埼玉県/一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会

千葉県/NPO法人 ちば市民活動・ 市民事業サポートクラブ

神奈川県/NPO法人

藤沢市市民活動推進連絡会

静岡県/NPO法人 たすけあい遠州

京都府/一般社団法人 関西浜通り交流会 福岡県/NPO法人 おおむた・ わいわいまちづくりネットワーク

■ 浪江町復興まちづくり計画を策定

2014 (平成 26) 年4月、町は、 浪江町復興計画策定委員会の 提言をもとに「浪江町復興まちづくり計画」を策定しました。この計画は、2012 (平成 24) 年10月に定めた「浪江町復興計画 【第一次】」の個別計画、ふるさとの再生に焦点を当てて策定したもので、避難指示解除準備区域を「浪江町全体の復興拠点」

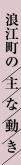


タブレット端末配付事業

と位置づけ、すべての町民を対象とした生活や生業の場、ふるさとを感じる場とし、この拠点を足がかりに、順次町内全域の整備を進めることを定めました(概略は74ページ参照)。

また、町では、町民の相互連絡や町からの情報提供の強化を目的に、町民全世帯※にタブレット端末を配付しました。タブレット端末の用途は住民からアイデアを募集し、次の6つの機能を盛り込みました。①行政・災害情報の通知、②県内ニュースの閲覧、③登録されたグループへの配信、④詳しい放射線量情報の確認、⑤ガイド機能(タブレットの使い方)、⑥スライドショー機能

※2011 (平成23)年3月11日に浪江町に住民票があった世帯(希望世帯のみ)



2014 (平成 26)年

【3月】

・浪江町復興まちづくり計画を策定

【3月11日】

・浪江町東日本大震災追悼式を町内で開催 (如水典礼さくらホール)



【3月20日】

· 浪江小学校卒業式

【3月22日】

- ・なみえ3.11復興のつどいを開催 (二本松市 二本松文化センター)
- ・「浪江のこころ通信」総集編を刊行

【3月24日】

・浪江町復興まちづくり計画を策定

【4月1日】

- ・福島県営の復興公営住宅の第一期入居者募集を開始
- ・警察と消防が町内に常駐を開始

【4月5日】

・明治神宮「昭憲皇太后百年祭」で郷土芸能 を奉納

【5月~】

・浪江町復興支援員の配置を全国10拠点に 増強

【5月16日】

・水稲実証栽培を開始、町内で4年振りの 田植え

■ 廃棄物処理、除染、海岸の復旧

環境省の事業による仮設焼却施設(マリンパークなみえ敷地内)の建設が始まり、10月29日に起工式が行われました。同施設は、災害廃棄物や除染廃棄物のうち、可燃物を焼却して減容化し、2017 (平成29) 年4月末までに約16.3万トンの処理を完了することを目指して建設されました。また、10月より棚塩地区と請戸地区の仮置場が供用をスタート。家の片付けごみや廃家電、津波ガレキや解体した被災家屋・被災車両などが搬入されました。さらに津波で被災した地区の復旧事業を開始。棚塩北部では消波ブロックが完成しました。

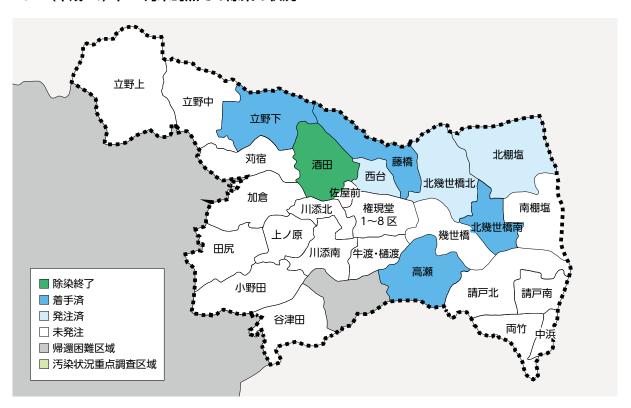
国直轄の除染計画の対象となっている避難指示解除準備区域と居住制限区域では、2013 (平成25)年11月から本格的な除染作業がスタート。2014 (平成26)年12月時点では、対象の34行政区のうち1行政区で除染が完了、着手済の4行政区で作業が進行中(下図)。国道114号の除染は2014 (平成26)年12月までに全対象区間が完了しました。(これら除染対象区域内では、宅地8%、農地11%、森林13%、道路17%の除染が完了)。

■町の営農再開に向けて

町の営農再開は、いち早く除染が始まっていた酒田地区での水稲実証栽培をスタート。酒田農事復興組合が主体となり、稲 (コシヒカリ・天のつぶ)を植えました (作付面積は約1ha)。5月16日、4年振りに田植えをした参加者は「営農再開を町の復興の第一歩にしたい」と、青々と輝く水田を前に目を細めました。当日の田植えには、環境省の井上副大臣、浮島政務官も参加。井上副大臣からは「除染を終えた田んぽで作業ができ、とても気持ちが良かった。今後も除染をしっかり行い営農再開に向けて力を尽くしたい」、浮島政務官からは「皆さんが『うれしい』と言ってくださいました。私もうれしい気持ちでいっぱいになりました。これを契機にしっかりと復興につなげていきたい」との言葉をいただきました。

他にも、4月25日に幾世橋地区において、NPO法人 Jinがトルコギキョウ約5,000本の定植を行い、8月に 見事に開花したトルコギキョウを南相馬市の道の駅で 販売しました。東京の大田市場にも出荷され、町の農業 再生の第一歩を踏み出しました。

2014 (平成 26) 年12月末時点での除染の状況



TOPICS

安全な米で復旧の意気込みを新たに

2014 (平成26) 年、町内で震災後初めて行われた稲の実証栽培で、10月に収穫されたコシヒカリ・天のつぶ、合計約6,800kgについて全量全袋検査を行いました。結果は、全ての米が基準値(100Bq/kg以下)より大幅に低い値となり、除染後の農地で安全な米が生産できることが証明されました。11月19日に環境省で行われた試食会では、馬場町長、鈴木組合長(酒田農事復興組合)、生産者の松本さんが、望月環境大臣、小里副大臣、福山政務官を訪問。試食会にて馬場町長は、「一粒一粒に復旧への意気込みが込められていると思う。希望をもって復興に精進していきたい」と決意を語りました。

浪江町産米の放射性物質検査結果

(30kg/袋)

	コシヒカリ	天のつぶ
25Bq 未満	120	106
25 ~ 50Bq	1 (*)	0
51 ∼ 75Bq	0	0
計	121	106

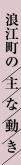
[※]交差汚染米処理直後の検査袋(最初のくず米)



酒田地区で水稲実証栽培を開始



仮設焼却施設の建設



2014 (平成 26)年

【8月~】

・平成26年度浪江町住民意向調査を実施

【8月27日】

・ローソン浪江町役場前店オープン、町内で 震災後初の小売店の営業再開

【9月15日】

・国道6号の通行制限 (富岡-双葉間) が解除

【10月18日~19日】

・「ご当地グルメでまちおこしの祭典! B-1 グランプリin郡山〜東北・福島応援特別 大会〜」を郡山市と共催

【10月29日】

・災害廃棄物の仮設焼却施設の起工式 (マリンパークなみえ敷地内)

【11月1日】

・仮設津島診療所(安達運動場応急仮設住 宅内)の常勤医2人体制に

【11月21日】

・環境省による町内の被災船舶の解体撤去 が開始

【12月1日】

・町民で構成された「浪江町防犯見守り隊」 のパトロール開始

【12月6日】

・常磐自動車道 浪江ICが開通、仙台まで高速 道がつながる

2015 (平成27)年

【2月~】

・希望する町民世帯へタブレット端末を配付

【3月~】

・常磐自動車道 浪江IC-常磐富岡IC間が開通し、全線がつながる

【3月11日】

・浪江町東日本大震災追悼式を開催 (二本松市 ほうりん)

【3月14日】

・なみえ3.11復興のつどいを開催 (二本松市 安達文化ホール・公民館)